

令和4年度 中央区立中央小学校 外部評価報告書

外部評価委員：豊田一成、高安正美、鈴木英子、鈴木一弥、片山英治、稲生憲一
神山安弘、細谷美明 ※敬称略

報告書作成者：細谷 美明

評価時期 令和5年3月

1 重点目標の評価

重点目標1(人と関わり合い、互いを思いやる子の育成)について

道徳の授業に関して、教員の評価とともに保護者の評価が多項目に比べて低い傾向にある。児童の評価データがないため何とも言えないが、学校の分析のように道徳の授業に対する保護者の理解が不足していることは事実だろう。授業で活用する読み物資料の紹介や道徳の授業についての説明を学校だよりで行うなど保護者に理解してもらう工夫をしていくべきである。

重点目標2(確かな学力の保証と学習意欲の喚起)について

授業に対する評価がおおむね肯定的であるが昨年度よりは低い数値であることについて、特に算数の少人数指導担当教員の配置がなかったことを理由として挙げている。適切な分析ではあるが、現在の教員不足の状況を考えると現状のままで好転するとは考えられない。児童がつまずきやすい単元での指導の工夫を中心に、専門的な指導助言が出来る講師を招聘した継続的な校内研修の企画など行う必要があるのではないだろうか。

重点目標3(児童の体力と健康への意識向上)について

ここ数年のコロナ禍による教育活動の制約のなかで体力づくりに関する制約は成長期にある児童たちにとって大きな影響を与えている。全国体力・運動能力調査の結果にはそれが如実に表れている。なわとびに特化した体力づくりは一つの対策であるが、体育という総合的な見地からは適切とはいえない。ストレッチや座ったままでできる運動など狭い空間で筋力をつける運動は数多くある。専門家の意見など収集しながら常に楽しみながら体を動かす習慣づくりも必要ではないだろうか。

2 今後の改善に向けた意見

授業に関しては児童の主体的な活動を意識的・計画的に取り入れ、その活動を児童に自己評価させその評価内容に関して教員が肯定的にアドバイスするスタイルの授業が少ない印象がある。このスタイルは児童の学習意欲を高め「個別最適な学び」をもたらすだけでなく、児童の心の中に「よりよく生きよう」といった道徳的心情も育てるものであるため、今後より多くの教員が取り入れていくことを期待したい。

3 その他の意見

重点目標以外の評価の中で、児童の悩みやトラブルなどに対する相談や対応に関する評価について、保護者・児童とも他項目と比べ否定的意見が多かった。コロナ禍において友人関係に関して児童の心は不安定になりがちであるからこそ、かえって教員の目は一人一人の児童に向けられるべきであり、こうした評価結果は真摯に受け止めるべきである。といって担任一人で取り組む必要はなく、より多くの教職員の協力をあおぎ児童一人一人の悩みをまずは丁寧に拾っていくことから始めるべきであろう。いろいろな制約があるかもしれないが、教員と児童間での情報収集や教員間の情報交換をタブレットを活用するなど効率的な方法を視野に入れることも選択肢の一つであろう。